

第4章 観光文化スポーツ部

[観光文化スポーツ部]

1. 観光・コンベンションの振興

- (1) 竿燈まつり振興事業 (予算額 15,462千円)
国重要無形民俗文化財「竿燈」の保存・振興等および、交流人口の拡大、地域活性化を図るため、秋田竿燈まつりの開催を支援する。
竿燈まつり 8月3日(金)～6日(月) (29年度入込数 約131万人)
- (2) ヤートセ秋田祭支援事業 (予算額 900千円)
市民参加型であるとともに観光誘客にも資するヤートセ秋田祭の振興等を図るため、運営を支援する。
ヤートセ秋田祭 6月23日(土)～24日(日) (29年度入込数 約3万人)
- (3) インバウンド誘客促進事業 (予算額 11,968千円)
訪日外国人観光客が増加する中、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け今後更に外国からの来訪者の増加が見込まれることから、本市へのインバウンド誘客の強化に取り組む。
- (4) 観光施設維持管理経費 (予算額 43,830千円)
秋田市が所管する観光施設の維持管理・運営等を行う。
ア 河辺ユフォーレ公園施設 河辺地域振興㈱が指定管理
イ 雄和6施設 ㈱雄和振興公社が指定管理
ウ 雄和高尾山レクリエーション施設 市が直接管理
- (5) 観光施設整備等経費 (予算額 35,578千円)
観光客等の安全で快適な利用に供するため、老朽化等に伴う施設の改修・修繕を計画的に行う。今年度は雄和高尾山レクリエーション施設トイレ改修工事を行う。
- (6) 観光プロモーション事業 (予算額 28,316千円)
本市の認知度やイメージを高めるため、竿燈公演を核とした観光誘客イベントを実施するほか、民間団体と連携した観光誘客活動を展開する。
- (7) 秋田市観光振興協働交付金 (予算額 80,000千円)
本市観光振興の担い手である公益財団法人秋田観光コンベンション協会に対して交付金を交付し、同協会の機能強化を図るとともに各種事業を実施する。
- (8) ギュギュっとあきた週末イベントリレー開催経費 (予算額 2,000千円)
9月から10月にかけて中心市街地でリレー形式により行われるイベントのPRを効果的に実施するため、本市や秋田商工会議所、民間団体等で組織する実行委員会事務局に対し、負担金を拠出する。
- (9) オール秋田「食と芸能」大祭典開催経費 (予算額 15,000千円)
県内の豊かな伝統芸能と食文化を集結したイベントを県都秋田市で開催し、県内外からの交流人口の拡大と県内周遊観光の拡充に取り組む。
- (10) 観光客等受入促進事業 (予算額 8,593千円)
本市で開催される大型コンベンション等の参加者やクルーズ船観光客へのおもてなしや観光myタクシーへの補助など観光客等の受入体制を整備し、観光誘客およびピーターの獲得による経済波及効果を高める。
- (11) 秋田中央横軸連携周遊観光促進事業 (予算額 7,773千円)
新幹線等でつながる秋田市・大仙市・仙北市・男鹿市の4市(秋田中央横軸)が連携して、外国人個人旅行者向けの二次交通網の整備等に取り組み、来訪する国内外の個人旅行者の増加と広域周遊観光の促進を図る。
- (12) ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」魅力発信事業 (予算額 10,400千円)
ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録された県内の3行事が「これが秋田だ！食と芸能大祭典2018」に参加し、各行事および各市の魅力を広く発信する。
- (13) 秋田犬ふれあい事業 (予算額 7,420千円)
外国人にも知名度が高い「秋田犬」を活用して、クルーズ船客などをはじめとする秋田市への来訪者の市

内滞在時間の増加や中心市街地への新たな人の流れを生み出し、観光誘客を推進する。

2. にぎわい創出

- (1) 中心市街地にぎわい創出事業 (予算額 10,020千円)
中心市街地に幅広い市民が集い、世代を超えた文化や交流の場となるよう、イベント等様々な取組を支援する。更に、にぎわい交流館等の情報発信機能を充実させ、中心市街地の魅力アップと継続的なにぎわい創出を図る。
- (2) にぎわい交流館等施設管理費 (予算額 145,216千円)
にぎわい交流館および中通一丁目自動車駐車場の維持管理・運営等を行う。
にぎわい交流館および中通一丁目自動車駐車場 あきたまちづくり共同企業体が指定管理
- (3) 北前船日本遺産推進事業 (予算額 20,052千円)
日本遺産に認定された自治体と連携し、北前船寄港地の情報発信等にとりくむとともに、全国の北前船寄港地で開催されるフォーラムへの参加、酒田市との交流事業により地域の活性化、観光誘客を図る。
- (4) 秋田港大型クルーズ船誘致等事業 (予算額 17,235千円)
クルーズ船誘致に向けたトップセールスを行うとともに、県と連携して受入体制のさらなる充実を図り、クルーズ船寄港による本市への観光誘客を図る。
- (5) 秋田市ポートタワー・秋田港振興センター管理運営経費 (予算額 82,965千円)
秋田港のシンボル施設である秋田市ポートタワーと秋田港振興センターを市施設として適切に管理運営することにより、より多くの人が集い、憩い、周辺一帯のにぎわいをもたらす場とし、秋田港本港地区の活性化および秋田港の振興を図る。
ア 秋田市ポートタワー「セリオン」 (株)秋田東北ダイケンが指定管理
イ 秋田港振興センター「セリオンプラザ」 (株)秋田東北ダイケンが指定管理
- (6) 秋田市ポートタワー・秋田港振興センター修繕経費 (予算額 22,686千円)
秋田市ポートタワーと秋田港振興センターについて、施設等の劣化や機能低下に対して、適切に修繕・更新することにより、長期間にわたり有効活用を図る。

3. 文化振興

- (1) 文化の振興
秋田市文化振興条例（昭和58年3月）の制定とともに、文化振興基金270,000千円を設置（平成29年度末268,620千円）し、その運用益等を芸術、学術等で広く市民文化の振興に貢献した個人、団体の諸活動に対する顕彰等に充てる。
また、市民の自主的な文化活動や中学校、高等学校等の文化部活動、特別支援学校における文化活動を支援するとともに、活動の場、鑑賞の機会、情報の提供に努める。
- (2) ふるさと文化創造発信事業 (予算額 49,700千円)
秋田ならではの文化芸術事業を支援することにより、文化芸術による国内外への情報発信や交流人口の拡大に加え、県市連携文化施設オープンまでの期間のにぎわいの創出を図る。平成30年度は、北前船をテーマとしたミュージカル「北前ザンブリコ」、東海林太郎生誕120周年祭などに対して支援を行う。
- (3) 文化財の保護および活用
文化財愛護思想の普及を図るとともに、文化財の指定や保存を推進するなど、文化財の保護および活用に努める。

秋田市内の指定文化財一覧

(平成30年4月1日現在)

種別 指定区分	有形文化財								民俗文化財		記念物			計
	建造物	絵画	彫刻	工芸	書跡古文書	考古資料	歴史資料	無形文化財	有形民俗	無形民俗	史跡	名勝	天然記念物	
国	8	—	1	—	1	2	1	—	2	3	3	1	1	23
県	3	12	10	27	17	19	9	—	4	2	5	—	1	109
市	8	16	18	20	23	13	20	2	7	10	8	2	11	158
計	19	28	29	47	41	34	30	2	13	15	16	3	13	290

- (4) 文化財保存事業補助金 (予算額 597千円)
文化財の保護と活用を図るために、重要文化財嵯峨家住宅・天徳寺・三浦家住宅の管理費の一部を補助する。
- (5) カモシカの食害対策事業 (予算額 3,000千円)
特別天然記念物カモシカの保護と農作物への食害を防止するため、農業被害に対して防護網や忌避臭袋を支給する。また、被害の軽減を図るためにカモシカ被害対策協議会を開催する。
- (6) 遺跡事前発掘調査事業 (予算額 3,000千円)
宅地造成などの開発行為から埋蔵文化財を保護するために、事前に発掘調査を行う。
- (7) 地蔵田遺跡公開活用事業 (予算額 1,000千円)
弥生時代前期の集落跡である国指定史跡地蔵田遺跡(平成8年11月6日指定)を、郷土学習の生きた教材として有効活用するとともに、史跡の周知を促進するために情報発信を行う。
- (8) 重要文化財天徳寺保存修理事業 (予算額 8,019千円)
重要文化財天徳寺(本堂・書院・開山堂)の保存修理にかかる事業費の一部を補助する。
- (9) 旧松倉家住宅修復整備事業 (予算額 18,300千円)
県指定有形文化財旧松倉家住宅(平成29年3月24日指定)を将来にわたって継承し、一般公開などの有効活用を図るため整備を行う。
- (10) 羽州街道歴史観光推進事業 (予算額 7,870千円)
魅力ある文化財が存在する旧羽州街道について、ウォーキングガイドや映像ソフト制作などにより観光ルートの設定や情報発信を行い、歴史を活かした都市の魅力向上を図る。
- (11) 秋田城跡歴史資料館 (予算額 146,830千円)
平成28年4月に、国指定史跡秋田城跡(昭和14年9月7日指定)の調査研究成果の公開と活用の総合拠点として開館した。
史跡秋田城跡の発掘調査、環境整備および土地の公有化を長期計画に基づいて継続的に実施するほか、出土遺物の科学保存処理を行う。
ア 平成29年度入館者数 8,132人
イ 利用案内
・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
・開館時間 午前9時00分～午後4時30分
・観覧料 一般(大学生を含む) 200円(160円)
()は団体20人以上の料金
年間観覧券 300円
高校生以下 無料
くるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円
- (12) 千秋美術館 (予算額 247,689千円)
昭和33年、秋田市美術館として設立。平成元年に市制100周年を記念してアトリオン内に移転、開館した。

市の中心部に位置し、市民が気軽に立ち寄り優れた美術品に親しむことができる都市型美術館である。

秋田蘭画をはじめ、寺崎廣業など郷土ゆかりの作家・作品のほか、洋画家・岡田謙三、写真家・木村伊兵衛などの作品を収蔵する。館蔵品による常設展示、国内外の優れた作品による企画展を開催している。

ア 平成29年度入館者数 42,803人

イ 利用案内

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)、アトリオン全館点検日(9月・2月)
- ・開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
- ・観覧料 常設展 一般 300円(240円)
大学生 200円(160円)

()は団体20人以上および
県立美術館との相互割引の料金

高校生以下 無料

企画展は企画毎に異なるが、常設展も観覧できる。

年間観覧券 一般 2,500円

大学生 1,000円

ぐるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円(企画展観覧は別途料金が必要)

(13) 赤れんが郷土館 (予算額 52,658千円)

昭和60年、郷土の歴史のおよび文化的所産の保存と活用を通じ、市民の教育と文化の向上に資するための施設として開館した。建物は明治45年に建築された旧秋田銀行本店本館で、昭和56年に市制施行90周年記念として銀行から市に寄贈されたものであり、平成6年には国の重要文化財(建造物)に指定されている。

郷土の歴史・文化に関わる企画展を開催しているほか、版画家・勝平得之と鍛金家・関谷四郎の作品、本市の伝統工芸品を常設展示している。

また、各種学習講座・講演会や文化財を利活用した赤れんが館コンサート等を開催している。

ア 平成29年度入館者数 23,742人

イ 利用案内

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)、展示替期間
- ・開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- ・観覧料 一般(大学生を含む) 200円(160円)
" 年間観覧券 500円
" 民俗芸能伝承館との共通観覧券 250円(200円)

()は団体20人以上の料金

高校生以下 無料

ぐるりん周遊パス(市立の文化施設の共通観覧券) 500円

(14) 民俗芸能伝承館「愛称：ねぶり流し館」 (予算額 27,028千円)

平成4年、竿燈・土崎神明社祭の曳山・梵天など郷土の民俗行事や秋田万歳・黒川番楽・山谷番楽・羽川剣ばやしなどの民俗芸能の展示と伝承のための施設として開館した。

来館者が気軽に竿燈にチャレンジできる施設として活用されているほか、後継者育成のための練習や発表の場として練習室等の貸出しも行っている。

ア 平成29年度観覧者数 40,762人

イ 平成29年度施設使用者数 9,365人

ウ 利用案内 (民俗芸能伝承館・旧金子家住宅)

- ・休館日 年末年始(12月29日～1月3日)
- ・開館時間 民俗芸能伝承館 午前9時～午後9時(練習室等を利用した場合)
旧金子家住宅 午前9時～午後4時30分(土蔵等を利用した場合)

・観覧時間	午前9時30分～午後4時30分	
・観覧料	一般（大学生を含む）	100円（80円）
	〃 赤れんが郷土館との共通観覧券	250円（200円）
		（ ）は団体20人以上の料金
	高校生以下	無料
	くるりん周遊パス（市立の文化施設の共通観覧券）	500円

(15) 旧金子家住宅

江戸時代後期以降の建築様式を継承した町屋の特徴を残した建物として、平成9年に市の有形文化財に指定され、平成16年度までに主屋と土蔵の復元整備を終えた。平成17年度から商家の店先を再現展示するとともに、土蔵と和室を展示会等の多目的利用が可能なスペースとして貸出しを行っている。

ア 平成29年度観覧者数 40,762人

イ 平成29年度施設利用者数 563人

(16) 佐竹史料館 (予算額 53,183千円)

平成2年、秋田藩主佐竹氏関連の歴史資料の収集と展示を目的に開館した。復元した久保田城御隅櫓や、御物頭御番所などの施設と連携して秋田の藩政時代を紹介している。

ア 平成29年度入館者数 14,726人

イ 利用案内

・休館日	年末年始（12月29日～1月3日）、展示替期間	
・開館時間	午前9時～午後4時30分	
・料金	一般	100円（80円）
		（ ）は団体20人以上の料金
	高校生以下	無料
	年間観覧券	200円
	くるりん周遊パス（市立の文化施設の共通観覧券）	500円

(17) 久保田城御隅櫓（くぼたじょうおすみやぐら）

久保田城本丸北西の隅に位置していた櫓を、市制100周年を記念して展望室を加えて復元した。久保田城や佐竹氏の歴史をパネル展示などにより紹介している。

ア 平成29年度入館者数 34,396人

イ 利用案内

・休館日	12月1日～3月31日	
・開館時間	午前9時～午後4時30分（市立小・中学校の夏季休業期間は、午前9時～午後7時）	
・料金	一般	100円（80円）
		（ ）は団体20人以上の料金

佐竹史料館の年間観覧券持参者および高校生以下 無料

くるりん周遊パス（市立の文化施設の共通観覧券） 500円

(18) 御物頭御番所（おものがしらごばんしょ）

久保田城内の二ノ門（長坂門）の開閉および管理と城下の警備、火災の消火などを担当していた物頭（足軽の組頭）の詰所であり、城内に唯一残っている藩政時代（18世紀中頃）の建物として、平成2年に市の有形文化財（建造物）に指定されている。

(19) 旧黒澤家住宅

藩政期に建てられた上級武家住宅。主屋をはじめ表門、米蔵、土蔵、木小屋、氏神堂などが当時のまま残っているのは全国でも例がなく、平成元年に国の重要文化財に指定されている。昭和63年に市内中通から一つ森公園内に移築している。

ア 平成29年度入館者数 1,006人

イ 利用案内

- ・休館日 年末年始（12月29日～1月3日）
- ・開館時間 午前9時30分～午後4時30分
- ・料金 一般 100円（80円）
（ ）は団体20人以上の料金
- 高校生以下 無料
- くるりん周遊パス（市立の文化施設の共通観覧券） 500円

(20) 旧秋田藩主佐竹氏別邸（如斯亭）庭園

江戸時代に整備された旧藩主佐竹氏の御休所で、東北地方の大名庭園や庭園文化を知る上で重要である。平成19年に国の名勝に指定された。平成26年から修復整備を行い、平成29年10月から一般公開を行っている。

ア 平成29年度入園者数 4,533人

イ 利用案内

- ・休園日 年末年始（12月29日～1月3日）
- ・開園時間 午前9時～午後4時30分（4月～11月）
午前9時30分～午後4時（12月～3月）
- ・入園料 一般 200円（160円）
（ ）は団体20人以上の料金
- 高校生以下 無料
- 年間入園券 500円
- くるりん周遊パス（市立の文化施設の共通観覧券） 500円

(21) 文化会館

（予算額 218,366千円）

昭和55年、市民の芸術文化活動の拠点として開館した。大・小ホールのほか会議室、練習室、展示ホール等を備え、公演・発表および会議の場として活用されている。

また、すぐれた芸術の鑑賞機会の提供や、市民参加型の事業を実施し、芸術文化の啓蒙を図っている。

ア 平成29年度利用者数 381,273人

イ 主な施設

- ・大ホール 収容定員 1,188人（うち車いす用スペース3、補助席9）
- ・小ホール 収容定員 400人（うち車いす用スペース3、母子席6、補助席3）
- ・会議室 大会議室、第1会議室から第7会議室、和室会議室
- ・練習室 第1練習室、第2練習室、リハーサル室、和室練習室
- ・展示ホール 第1展示ホール、第2展示ホール

ウ その他の施設

- ・茶室
- ・託児室
- ・喫茶

◎文化施設

施設名	開年 設年度	構造	面積 (㎡)	備考
秋田城跡歴史資料館	平28	鉄筋コンクリート 平屋建	947.00	平28.4開館 展示施設 324.0㎡ 管理運営施設 623.0㎡

施設名	開年 設年度	構造	面積 (㎡)	備考
野外音楽堂	昭46	鉄筋コンクリート	69.00	野外ステージ
千秋美術館	昭33	鉄骨鉄筋コンクリート	2,933.63	平元.11アトリオン内に移転
赤れんが郷土館	昭60	煉瓦造一部RC3階建	1,899.99	国指定重要文化財(建造物)
民俗芸能伝承館	平4	鉄骨造5階建	1,340.02	展示室、練習室、会議室
旧金子家住宅	平17	木造2階建	607.92	市指定有形文化財(建造物)
佐竹史料館	平2	鉄筋コンクリート高床式 平屋建	518.86	
旧黒澤家住宅	平元	木造平屋建	343.39	国指定重要文化財(建造物)
御物頭御番所	昭63	木造中2階建	125.70	市指定有形文化財(建造物)
久保田城御隅櫓	平元	鉄筋コンクリート 三層4階建	430.36	
文化会館	昭55	鉄骨鉄筋コンクリート造一 部鉄骨造 5階建	14,284.10	
地藏田遺跡 出土品展示施設	平25	御所野総合公園管理事務所 内	139.27	
如斯亭庭園	平29	庭園	4,054.99	国指定名勝

4. スポーツの振興

- (1) 体育振興各種激励金 (予算額 4,702千円)
トップアスリートの競技力向上と競技スポーツの普及振興を目的に、「国際大会に出場する選手」および「全国・東北大会に出場する小中学生」に対し激励金を支給する。
- (2) ジュニアアスリート支援事業 (予算額 1,247千円)
2020年東京オリンピック世代となるジュニアアスリートの競技活動を支援するため、スポーツ栄養学やメンタルトレーニングなどのセミナーを開催し、競技力向上に努めるほか、トップアスリートになるための心構えや意識付けを明確にするため、オリンピックを招聘した「トップアスリート講演会」の開催や、実技指導を実施する。
- (3) 市民スポーツ活動振興事業 (予算額 18,656千円)
全市一斉スポーツレクリエーション大会・ラジオ体操のつどいなどの開催や、地区スポーツ大会・教室への助成事業および競技団体やスポーツ少年団の育成事業を（一財）秋田市体育協会に委託する。
- (4) はずむスポーツ都市推進事業 (予算額 10,094千円)
はずむスポーツ都市のPRに努めるとともに、幅広い世代が健康づくりに取り組めるイベントや各種スポーツ教室等を実施する。
ア 健康のつどい
イ はずむスポーツ教室
ウ SOMPOボールフェスタ2018
エ 「はずむスポーツ都市」秋田市フロアカーリング交流大会
- (5) チャレンジデーの開催 (予算額 3,241千円)
市民参加型イベント「チャレンジデー」への参加を通じて、市民のスポーツに対する関心と習慣化を喚起するとともに、誰もが気軽に健康づくりに取り組み、地域の活性化や絆づくりにつながる豊かなスポーツライフの実現を目指す。
- (6) 生涯スポーツの振興 (予算額 7,152千円)
ア 学校体育施設開放事業
地域の身近なスポーツ施設である学校体育施設を開放し、気軽にスポーツに親しむことができる環境を提供する。
(ア) 指定開放日 4月から11月までの毎週水曜日に、個人および10人未満のグループを対象に、施設を開放。開放時間は、グラウンドが午前6時から午前7時30分、体育館が午後7時から午後9時まで。
(イ) 団体使用 学校区内の住民10人以上で構成された団体は、「学校体育施設使用団体」として各学校単位で登録し、学校教育に支障のない範囲で施設を使用。
イ スポーツ推進委員の育成
ウ 学校開放スポーツ教室の開催
エ ニュースポーツの普及・貸出用具の整備
- (7) スポーツホームタウン推進事業 (予算額 53,068千円)
トップスポーツクラブの活動支援、バナーのぼり等の掲出によるホームゲームのPRなどを行い、チームの経営・活動基盤を強化するとともに、市民が地元クラブを応援する気運を高めるほか、日本のトップレベルの選手が集う本市開催の全国大会等に支援し、交流人口の拡大を図る。
- (8) 体育施設整備補修等経費 (予算額 207,876千円)
・市立体育館サブアリーナ屋根防水改修工事
・市立体育館サブアリーナ棟空調設備機器更新等工事
・市立体育館メインアリーナ棟空調設備等劣化診断調査業務委託
・雄和新波野球場仮設トイレ借上料
・バドミントン世界グランプリ大会開催準備経費

(バドミントンコートマット、支柱、審判台購入経費)

- (9) ホストタウン交流事業 (予算額 31,950千円)

平成28年12月9日に登録された2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウン交流計画に基づき、フィジー共和国とのスポーツおよび文化交流を通じ、地域経済の活性化と交流人口の拡大を推進し、ラグビーワールドカップ2019大会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での事前合宿誘致を目指す。

- (10) 障がい児者スポーツ活動応援事業 (予算額 1,238千円)

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に市民のスポーツに対する関心が高まる中、障がい者がよりスポーツに親しむことができる支援体制や環境を整備する。

ア 障がい者スポーツ指導員の養成

・初級障がい者スポーツ指導員養成講習会参加者への受講料助成

イ 障がい児者スポーツセミナーの開催

・世界で活躍したパラリンピアンによる講演会等の開催

ウ スポーツ活動拠点先進事例調査

・障がい者スポーツの活動拠点を設置するなど、先駆的な取り組みを行っている先進市の事例調査

- (11) 八橋陸上競技場夜間照明等設備事業 (平成29年度→平成30年度繰越明許費設定 予算額 989,972千円)

ブラウブリッツ秋田のJ2昇格を後押しするため、新スタジアム完成までの間使用することとなる八橋陸上競技場について、J2クラブライセンス取得条件をクリアするために必要な改修工事を実施する。

ア 大型映像装置建設工事

イ 照明設備工事

ウ ドーピングコントロール室改修工事

エ サッカーゴール更新工事

オ 選手用スタジアムロッカー設置工事

カ トイレ様式化改修工事

キ 防音壁設置工事

◎市体育施設の概要

施設名	所在地	収容人員 (人)	電 話	規 模 (㎡)	施設の内容
陸上競技場	八橋運動公園 1-10	20,125	823-1472	29,458	第2種公認競技場 1周400m (8コース) 全天候型
硬式野球場 (さきがけ八橋球場)	八橋運動公園 1-7	16,421	867-1000	17,631	両翼100m、中堅122m マットフェンス張 LED付磁気反転表示スコアボード (H18.2)
球技場 (あきぎんスタジアム)	八橋運動公園 1-1	4,992	883-1870	16,268	メインスタンド 鉄筋コンクリート造P C造 一部鉄骨造3階建 延床面積 1,493.73㎡ 電光得点盤 夜間照明柱8基、 メタルハライド灯 1.0KW 128個 天然芝 (寒冷型西洋芝)
第2球技場 (スペースプロジェクト・ ドリームフィールド)	八橋運動公園内	730		10,900	観覧席 倉庫、夜間照明設備 メタルハライド灯 1.5KW 60個 人工芝
健康広場				11,100	倉庫、夜間照明設備 メタルハライド灯 1.5KW 60個 改良野芝ひめの
相撲場		2,000		3,362	盛土芝張、土俵上屋付 (4本柱)
テニスコート		2,000		7,644	砂入人工芝コート6面 本部席、夜間照明柱6基 メタルハライド灯 1.0KW 16個
”				3,854	グリーンサンドコート4面、 用具庫
多目的グラウンド				13,250	管理倉庫、ダッグアウト 四阿、夜間照明設備 コンクリート柱6基、 メタルハライド灯 1.5KW 90個
市立体育館 (CNAアリーナ★あきた)	八橋本町六丁目 12-20	6,100	866-2600	11,433	鉄筋コンクリート2階建 競技場面積 メインアリーナ 2,540㎡ サブアリーナ 836㎡ 卓球室 324㎡ ジョギングコース 250m 固定観覧席 メインアリーナ 2,468人 ロールバックスタンド 900人 サブアリーナ 300人 計 3,668人 更衣室、シャワー室、会議室、 多目的ホール

施設名	所在地	収容人員 (人)	電話	規模 (㎡)	施設の内容
茨島体育館	茨島一丁目4-71		865-1417	2,323	鉄骨・鉄筋コンクリート造 3階建 体育館 923.40㎡ 武道場 399.33㎡ トレーニング室 145.35㎡ ミーティングルーム、更衣室、 シャワー室
茨島運動広場	茨島一丁目12-12		865-1417 (茨島体育館)	4,045	
河辺体育館	河辺和田字上中野 186	240	882-3654	2,205	鉄骨一部鉄筋コンクリート造 2階建 事務室、ホール、更衣室、器具 室、放送室、電気室
雄和体育館	雄和妙法字上大部 95-1	384	886-2844	2,571	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 2階建 事務室、ホール、小ホール 更衣室、ミーティングルーム
雄和南体育館	雄和神ヶ村字陳笠 259		887-2318	1,121	鉄筋コンクリート一部鉄骨造 2階建 事務室、更衣室、 ミーティングルーム
河辺岩見三内野球場	河辺三内字上野 58-2		882-3654 (河辺体育館)	26,873	両翼91m、中堅120m、 用具室、器具室、屋外便所
河辺和田野球場	河辺和田字和田224		882-3654 (河辺体育館)	14,733	両翼91m、中堅120m、 審判控室、用具室、 カウント表示盤
河辺戸島野球場	河辺戸島字上野 50-1		882-3654 (河辺体育館)	12,000	両翼91m、中堅110m、 審判室、用具室、屋外便所
スポパークかわべ	河辺岩見 字萱森上野17-2		881-2411	65,171	管理棟 168.37㎡ 木造平屋建 サッカー場 9,750㎡ 多目的広場 11,952㎡ グラウンド・ゴルフ場 20,999㎡
北野田公園 アリーナ・テニスコート	河辺北野田高屋 字小高37-1	400	881-1950	56,000	アリーナ 砂入人工芝 (テニスコート2面分) 事務室、会議室、ロッカー・ シャワー室 テニスコート 砂入人工芝コート(8面) 夜間照明(4灯×8塔)
雄和新波野球場	雄和新波字寺沢 31-1		887-2318 (雄和南 体育館)	11,521	両翼90m、中堅110m、 事務室、更衣室、審判員室、放 送室、便所、バックネット
雄和花の森野球場	雄和石田字蟹沢39	1,300	886-2844 (雄和体育館)	96,182	メインスタンド 鉄筋コンクリート2階建 348.84㎡ 両翼100m、中堅122m、 事務室、更衣室、審判員室、放 送室、便所、バックネット バックスクリーン、 スコアボード、屋外トイレ
花の森テニスコート	雄和石田字蟹沢41		886-2844 (雄和体育館)	1,814	砂入人工芝コート(2面) 夜間照明(4灯×4基)

施設名	所在地	収容人員 (人)	連絡先	電話	規模 (㎡)	施設の内容
土崎市民グラウンド	土崎港西四丁目 3-1		北部市民サービスセンター	846-1133	9,400	夜間照明設備 鉄筋コンクリート柱 高さ20m 6基 メタルハライド灯 1.5KW 60個
勝平市民グラウンド	新屋豊町153-1		勝平屋内 ゲートボール場	866-1055	23,547	野球場1面、多目的広場 1面 夜間照明設備 コンクリート柱高さ21m 7基・20m 4基 メタルハライド灯 1.0KW 76個
勝平屋内 ゲートボール場	新屋豊町1-31			866-1055	996	ゲートボールコート2面 休憩室
光沼近隣公園 テニスコート	土崎港相染町字 沼端77			847-4602	1,490	砂入り人工芝コート2面
屋内多目的運動場 (光沼アリーナ) 一つ森公園 弓道場	下北手桜字蛭沢 62-1		一つ森公園 コミュニティ 体育館	831-8300	1,151 射場 158 36	砂入人工芝コート ゲートボール場2面 6人立ち
雄和B&G 海洋センター	雄和神ヶ村字 陳笠258		雄和南体育館	887-2318	1,038	プール (6コース・25m×13m) 幼児プール(10m×6m) 事務室、更衣室、医務室
横森地域運動広場	横森三丁目 3-1				8,342	野球場1面
西部地域運動広場	新屋大川町 20-5		西部市民サービス センター	828-4217	9,148	野球場1面
北部地域運動広場	下新城笠岡字 笠岡47		下新城コミュニティ センター	873-2112	8,755	野球場1面
手形中台地域 運動広場	手形字中台 59-2				7,102	多目的広場
飯島地域運動広場	飯島字古道92		飯島コミュニティ センター	845-1731	12,911	野球場1面
外旭川地域 運動広場	外旭川八幡田 一丁目18		外旭川地域 センター	868-1500	10,170	野球場1面
湯野目地域運動広場	雄和下黒瀬字 湯野目39				1,758	多目的広場
下浜八田地域 運動広場	下浜八田字餅田 42-2				4,097	多目的広場

5. 秋田拠点センターアルヴェ・秋田市民交流プラザ管理室

秋田拠点センターアルヴェは、秋田駅東西の一体的なまちづくりを実現するため、秋田市と民間事業者とが連携して、平成16年7月にオープンした官民複合施設である。

(1) 秋田市民交流プラザ管理室 (予算額 313,489千円)

アルヴェ公共棟である秋田市民交流プラザは、市民交流の場の創出、市民生活の向上、地域の活性化などを目的として、駅東サービスセンター、子ども未来センター、自然科学学習館、市民交流サロンにおいて各種行政サービスが行われているほか、きらめき広場や多目的ホール、音楽交流室や洋室などの有料貸出施設も有しており、さまざまなイベントや各種会合に利用されている。

また、秋田駅東西連絡自由通路（ぼぼろード）および秋田駅東口駅前広場の維持管理業務も行っている。
有料貸出施設

- ・きらめき広場(660㎡) ・多目的ホール(410㎡)
- ・洋室A(35㎡)、洋室B(55㎡)、洋室C(120㎡)、和室(44畳)、調理室(50㎡)
- ・音楽交流室A(35㎡)、音楽交流室B(25㎡)、音楽交流室C(25㎡)、音楽交流室D(105㎡)

(2) 官民連携秋田駅周辺活性化事業 (予算額 6,389千円)

秋田駅周辺の活性化を図るため、アルヴェ管理組合やJR秋田駅などをはじめとする民間事業者と連携し、にぎわい創出を目的とした各種集客イベントを開催している。

6. 大森山動物園

昭和48年9月に秋田市中心部の千秋公園内にあった「秋田市児童動物園」を秋田市西部の丘陵地に位置する大森山公園内に移転し、開園した。

開園後も、ゾウ、キリンの導入などの施設整備を進めるとともに、各種行事の開催を行うほか、近年はふれあい教室や体験学習などの教育普及活動も実施している。

[沿革]

昭和25年8月1日	千秋公園内に「秋田県児童会館附属動物園」を開設
昭和28年4月1日	秋田市に移管され、「秋田市児童動物園」と改称
昭和48年9月1日	大森山公園内に移転し、「秋田市大森山動物園」と改称
昭和56年4月1日	「サル山」オープン
平成3年4月1日	「大型動物舎」完成（市制100周年事業）、ゾウ・キリン展示開始
平成9年4月26日	「ふれあいランド」オープン
平成14年3月21日	「チンパンジーの森」オープン
平成15年10月4日	「王者の森」オープン
平成18年1月1日	「秋田市大森山動物園条例」施行
平成19年3月31日	研修ホール・管理棟「ミルヴェ館」オープン
平成20年3月26日	動物健康管理センター「森のびょういん」オープン
平成21年3月31日	大型遊具施設宝くじ遊園「アソヴェの森」オープン
平成22年3月31日	動物園再整備基本構想策定
平成23年3月19日	「さるっこの森」オープン
平成26年7月24日	「ビジターセンター」および「ウエルカム動物舎」オープン
平成27年3月19日	ネーミングライツ導入

(1) 入園者数 266,614人（平成29年度）
開園期間：4月1日～11月30日・1月6日～2月25日までの土日、祝日・
3月17日～3月31日

(2) 面積

ア 総面積 150,070m² (うち水面面積 20,100m²)
 イ 管理施設面積 建物 7,388m² 展示場 13,226m²

(3) 飼育展示動物数 合計96種579点 (平成30年3月31日現在)

内訳 : 哺乳類 54種345点 鳥類 27種147点 は虫類 11種 24点
 魚類 3種40点 無脊椎動物 1種 23点

(4) 入園料 (平成26年4月1日から) 大人 720円 団体 520円 高校生以下無料
年間利用券 (動物園パスポート) 1,230円

(5) 公園施設 開設面積69.31ha (動物園15ha含む)

ア 主な施設
 グリーン広場 : 面積14,000m²、かまど、水洗トイレ、四阿
 展望台 : 標高123m
 キャンプ場 : 面積3,000m²、炊事場、テントサイト、トイレ
 駐車場 : 10箇所、797台
 その他 : 彫刻の森、散策路

(6) 主な行事

月	名 称	内 容 等	平成28年度	平成29年度
4	飼育の日イベント	動物園裏側探検・キーパーズトークなど	4,173人入園	3,998人入園
5~11	3園館連携スタンプラリー	加茂水族館、GAOと共催	671組参加	453組参加
4~5	ゴールデンウィークイベント	シルヴァンジャーショーなど	22,007人入園	36,146人入園
5	どうぶつサイエンス	動物のお医者さん	24人参加	31人参加
6	春の動物ふれあいフェスティバル	動物パレードなど	2,831人入園	194人入園
7	写生大会	親子で楽しむ写生大会	523点出品	246点出品
〃	サマースクール	飼育体験等 (2日間)	48人参加	49人参加
8	夜の動物園	夜間開園 (5日間)	11,752人入園	13,873人入園
〃	移動動物園@岩城ふれあい港まつり		—	150人参加
9	大森山アーツ&ズー	ギャラリートークなど	9,388人入園	5,732人入園
〃	自然観察会	大森山公園の観察など	21人参加	9人参加
〃	移動動物園@あきた元気祭り		—	291人参加
〃	塩曳潟水生生物調査イベント	塩曳潟地引き網など	20人参加	34人参加
10	移動動物園@ハピネッツ・ホームゲーム		—	356人参加
〃	秋の動物ふれあいフェスティバル	動物クイズ大会など	1,923人入園	5,237人入園
11	どうぶつサイエンス	イヌ科動物の秘密を探ろう	25人参加	27人参加
〃	いい夫婦の日イベント	夫婦・カップル限定のイベント・サービス		112人入園
1	移動動物園@あきたアニメフェスティバル		—	154人参加
1~2	雪の動物園	干支展など (18日間)	—	10,433人入園
3	通常開園	写真展など (2日間)	30,919人入園	3,384人入園

(7) 教育普及活動実施状況

項目		平成28年度		平成29年度	
なかよしタイム	一般	244回	34,581人参加	264回	33,881人参加
ふれあい教室	団体	129団体	4,079人参加	117団体	3,472人参加
体験学習		31団体	431人参加	50団体	1,093人参加
職場訪問・講話		14団体	1,670人参加	36団体	2,666人参加
教職員および企業研修		11団体	15人参加	1団体	1人参加
団体ツアー特別サービス			—	7団体	513人参加

※上記は全て延べ数